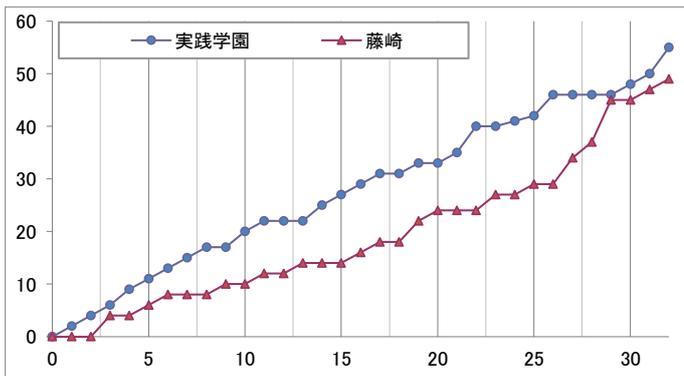




大会名	平成28年度全国中学校体育大会 第46回全国中学校バスケットボール大会																		
会場	福井市体育館																		
日時	2016年8月23日(火) 16:10																		
コート	F Aコート 第6試合																		
カテゴリー	男子選Eリーグ第3試合																		
主審	青山 宣正																		
副審	山本 貴彦																		
TEAM A	TEAM B																		
実践学園 (東京)	55 ○	<table border="0"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>8</td></tr> <tr><td>12</td><td>2nd</td><td>8</td></tr> <tr><td>12</td><td>3rd</td><td>11</td></tr> <tr><td>14</td><td>4th</td><td>22</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> </table>	17	1st	8	12	2nd	8	12	3rd	11	14	4th	22	—			49 ●	藤崎 (青森)
17	1st	8																	
12	2nd	8																	
12	3rd	11																	
14	4th	22																	
—																			

得点経過



BOXスコア

TEAM A		実践学園						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	F	
4	五島 大成 (CAP)	×	14	0	6	2	3	
5	海貝 太一	×	13	3	2	0	2	
6	小宮山 駿帆	/	0	0	0	0	0	
7	江原 信太郎	×	8	0	4	0	4	
8	渡部 一輝	×	15	1	6	0	2	
9	島元 奏多	×	5	0	2	1	4	
10	野田 駿介	DNF	0	0	0	0	0	
11	足立 雅憲	DNF	0	0	0	0	0	
12	山口 流聖	DNF	0	0	0	0	0	
13	本間 合	DNF	0	0	0	0	0	
14	小森 颯太	DNF	0	0	0	0	0	
15	保高 優平	DNF	0	0	0	0	0	
16	露木 真弥	DNF	0	0	0	0	0	
17	櫻井 椋介	DNF	0	0	0	0	0	
18	齊藤 翔吾	DNF	0	0	0	0	0	
コーチ	森 圭司							
合計			55	4	20	3	15	

TEAM B		藤崎						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	F	
4	木村 拓郎	×	20	0	7	6	3	
5	神 魁杜 (CAP)	×	13	0	4	5	1	
6	福井 太一	×	8	1	2	1	2	
7	角田 翔	×	8	1	2	1	2	
8	阿部 浩志	DNF	0	0	0	0	0	
9	山岡 慎乃亮	DNF	0	0	0	0	0	
10	前田 翔志希	DNF	0	0	0	0	0	
11	三上 凜	×	0	0	0	0	1	
12	古舘 美輝	DNF	0	0	0	0	0	
13	櫻田 龍空	/	0	0	0	0	1	
14	成田 陸翔	DNF	0	0	0	0	0	
15	葛西 孝哉	DNF	0	0	0	0	0	
16	藤田 勇斗	DNF	0	0	0	0	0	
17	長尾 侑真	DNF	0	0	0	0	0	
18	三上 裕輔	DNF	0	0	0	0	0	
コーチ	山形 紀雄							
合計			49	2	15	13	10	

×…スターター /…出場 DNF…未出場 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

リーグ1位通過を賭けた1戦、始めに流れをつかんだのは実践学園。#7のインサイドプレーやアシスト、#4のドライブで着実に加点していった。藤崎は#4、5を軸に攻めるが、実践学園の高さに苦戦し8-17で1Q終了。2Q、藤崎はチームDefで#7を押さえ始め、速攻から#4、7が得点する。しかし、要所で実践学園#5が3Pを決め、流れを渡さない。すると、実践学園#4が厳しいDefをかくぐり、インサイドのシュートを決め、リードを広げる形に。前半を16-29と実践学園がリードし前半を終える。

3Q、藤崎#5がローポストプレーを行うようになり、インサイドのシュートが決まり始める。流れを渡したくない実践学園がハーフコートプレスをしかけ、藤崎に苦しいシュートを打たせ、リバウンドから速攻へつなげる。実践学園がリードを保ったまま27-41で3Qを終える。4Q、藤崎が#6が3Pを決めたことをきっかけにして、オールコートプレスをしかける。バックコートから厳しいプレッシャーをかけスティールや相手のターンオーバーで次々と加点していく。実践学園はタイムアウトを取るも勢いを止められず、1点差まで追い上げられる。しかし、逆転を狙ったプレーで藤崎にミスが出て、実践学園は#5が確実にレイアップを決め万事休す。藤崎#4がジャンプシュートを決めるも及ばず、49-55で実践学園が前年度優勝校の意地を見せつけ1位通過を果たした。